

詩吟講座 -Shigin class-

川中島 かわなかじま KAWANAKAJIMA / 頼山陽 らいさんよう RAI SANYOU

▶ http://www.kangin.or.jp/learning/text/japanese/k_A1_008.html

↓川中島 頼山陽：初心者用 楽譜

川中島 頼山陽

遺恨なり 十年 一剣を 磨き

曉に見る 千兵の大牙を 擁するを

鞭声 肅肅 夜河を 過る

流星 光底 長蛇を 逸す

川中島 頼山陽

←川中島 頼山陽
中級者用 教本

川中島 頼山陽→
上級者用 漢詩

川中島 頼山陽

流星 遺恨 曉見 鞭聲 肅肅 夜過 河

光底 十年 千兵 擁大 牙

逸長 一劍 大牙 過河

○ ○ ○

読み方

川中島<頼山陽>

鞭声粛粛 夜河を過る

曉に見る千兵の 大牙を擁するを

遺恨なり十年 一劍を磨き

流星光底 長蛇を逸す

かわなかじま<らいさんよう>

べんせいしゆくしゆく よるかかわをわたる

あかつきにみるせんぺいの たいがをようするを

いこんなりじゅうねん いっけんをみがき

りゅうせいこうてい ちょうだをいっす

詩の意味

(上杉謙信の軍は) 鞭の音もたてないように静かに、夜に乗じて川を渡った。明け方、武田信玄方は、上杉の数千の大軍が大將の旗を立てて、突然面前に現れたのを見て、大いに驚いた。

しかし、まことに残念なことには、この十数年来、一劍を磨きに磨いてきたのに、打ち下ろす刃(やいば)がキラッと光る一瞬のうちに、あの憎い信玄を打ちもらしてしまった。

語句の意味

粛々：物静かなさま

大牙：上杉軍の大將の旗印

擁：抱きかかえる 持つ

遺恨：残念な

流星光底：流星の飛ぶ如く劍を抜いて切り下げた時の光

長蛇：目指す大敵 ここでは信玄を指す



Title : 川中島 かわなかじま KAWANAKAJIMA

Poet : 頼 山陽 らい さんよう RAI SANYOU

鞭声 肅々 夜河を渡る

BENSEI SHUKU SHUKU YORU KAWA O WATARU

In hushed silence, just lightly touching their horses
they (TN: Uesugi's troops) crossed the Sai River

暁に見る 千兵の大牙を擁するを

AKATSUKI NI MIRU SEMPEI NO TAIGA O YOOSURU O

St dawn, Takeda--- surprised to see thousands of enemy soldiers carrying the flag decorated with --- tusk.

遺恨なり十年 一劍を磨き

IKON JUU-NEN IKKEN O MIGAKI

(EC: a warrior appeared in front of Takeda was Uesugi himself)

For the last ten years, Uesugi had been polishing his sw---- moment of revenge.

流星光底 長蛇を逸す

RYUUSEI KOOTEI CHOODA O ISSU

Unfortunately, Uesugi missed his c---- Takeda, because Takeda escaped in an instant, like a shooting star

平晴吟友会 師範 平木星寿

Heisei Ginyu Kai Hiraki Seiju

(209) 475-1671

zoomshigin@sonic.net



平晴吟友会